

# ネットワーク長野県史料協

## 平成21年度長野県史料保存活用連絡協議会活動報告

県史料協事務局 高田 実

### 1 平成21年度

#### 長野県史料保存活用連絡協議会

今年度の総会は平成21年7月2日(木)に上田市立上田図書館において開催しました。同図書館は戦時中、東京帝国大学史料編纂所史料の疎開先とされた歴史のある施設です。県下各地から約40名の参加者を迎え、本協議会の今年度の活動計画などが承認されました。

総会后、実践報告として上田市立上田図書館所蔵の古文書を学習しながら、市民に古文書の公開普及活動を行っている「山なみの会」会長の宮島かつ子さんと講師の尾崎行也さんから「山なみの会の活動概況」と題して、同会の活動内容について報告をいただきました。同会は設立以来30年間継続した活動を続けており、同図書館の貴重資料の解説・研究を進め、隔年でその紹介展を開催されていることに、参加者一同強い感銘を受けました。その後、同図書館の書庫を視察させていただき、館長の坪田秀彦さんに収蔵されている古文書と古典籍の概要を説明していただきました。たくさんの収集史料に驚き、保存だけでなく活用も積極的に行っておられることに感心させられました。



宮島かつ子氏(左)と尾崎行也氏(右)



上田市立上田図書館書庫内視察

### 2 第1回文献史料保存活用講習

総会と実践報告・視察の後、午後は長野県立歴史館と共催の講習会を行いました。今回は十日町情報館業務主査学芸員の高橋由美子さんをお招きして、「資料救出から整理、そして活用へ～市民ボランティアの意義と展望～」と題する講演をいただきました。

平成16年10月の新潟県中越地震で被災した十日町の古文書等の緊急避難事業には一般市民のボランティアが活躍しました。これをきっかけに十日町古文書整理ボランティアが設立され、地震被災により十日町情報館が一時預かりをしたり、寄託や寄贈をいただいた歴史資料を、整理・保存・活用するための活動が始まり、資料保存・文化財保護に対する市民レベルの関心が高まったことなどをお話しいただきました。高橋さんが実際に体験され、奮闘された数々のエピソードは、歴史資料の保存・活用に関わる者にとって貴重な内容で感服するものでした。

## 平成21年度文献史料保存活用講習会報告



高橋由美子氏

## 3 第2回文献史料保存活用講習会

今年度2回目の文献史料保存活用講習会は、11月6日（金）に例年どおり長野県立歴史館主催、本協議会共催で、長野県立歴史館において国立公文書館の業務課修復係長有友至氏・同係員中島郁子氏・同係専門員阿久津智弘氏の3名をお招きし、行政文書・古文書等の文献史料の保存・修復の技術修得講習を行いました。

昨年度も修復の講習を行いました。好評であったことと、さらに技術向上をめざしたいとの会員からの強い要望が寄せられたため、2年連続で行うことになりました。今回は昨年度の講習内容を受けて、裏打ちの技術だけでなく、和綴じ（四つめ綴じ）の方法・パンフレット製本など新しい内容にもチャレンジしました。全県から40名以上が受講し、歴史館の遺物整理室が満杯になるほどの盛況でした。

有友さんをはじめ3人の講師の方から懇切丁寧に、親身なご教授をいただき、会場のあちこちで、「合点があった」「目から鱗」という表情が見られました。文献史料を取り扱う仕事に携わる者にとって、今回の実践的な内容は通常業務に直接に反映できるものであり、定期的で開催していくことで、県内の文献史料の修復をすすめ、県民の利用に供することができるようにしていきたいものです。



第2回文献史料保存活用講習会講習風景

## 藤本蚕種関係史料紹介

千曲川洪水常襲地帯である塩尻村は水田農業が適していない代わりに、千曲川が洪水とともに運んでくる佐久地方の豊かな森林褐色土壌によって、全国屈指の桑栽培適地となった。

塩尻村ではこの桑園を活用する養蚕が古くから栄え、やがて蚕種製造の本場として全国に、さらに世界に名を馳せた。藤本善右衛門が開発した「青白種」を初めとして上田藩領内の蚕種は海を渡ってフランス・イタリアに大量に輸出され、わずか10年間前後であるが、未曾有の繁栄を誇ることになった。ヨーロッパへの輸出が途絶した後も、この地方の蚕種は日本全国へ販売され、21世紀に入った今日まで続いている。その中心となったのが塩尻村の藤本蚕種合名(株式)会社であり、廃業した後もその関係史料は保存され、今日に至っている。

私たち上田小県近現代史研究会は、2003年8月から保存された史料の整理を進め、2009年8月には目録作成に辿りつく。その途中で、藤本本家関係史料や茨城県土浦関係史料も合流して、戦国期から1970年代までの、また、営業所として栄えた土浦関係も含む一大史料群となった。このため、この史料群には下記の4種類の史料が含まれている。

- 1 藤本本家関係史料
- 2 藤本蚕業合名会社から藤本蚕種株式会社までの史料
- 3 上記会社が蒐集してきた図書・雑誌・紀要・新聞
- 4 その後、収集された土浦関係史料など

このうち、特に藤本蚕業合名会社から藤本蚕種株式会社までの史料について以下に簡単に紹介する。

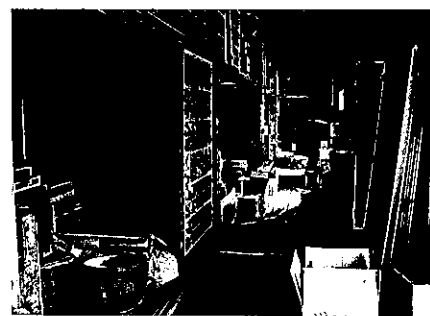
この史料群は1908(明治41)年に設立された藤本蚕業合名会社以後、藤本蚕種株式会社

### 上田小県近現代史研究会 新津新生

が廃業する1966(昭和41)年までの62年間の史料から成る。その間、1924(大正13)年には藤本蚕業株式会社と株式組織に改組し、戦時中には大日本蚕糸株式会社に合併して同藤本製造所となり、戦後は独立して1951(昭和26)年に藤本蚕種株式会社となった。以後、廃業するまでこの社名で営業した。また、約60年に及ぶ史料を、便宜上、生産と販売の仕組みの変化から、戦前と戦後に大別し、さらにそれらを製造・販売・会計・分場・その他及び一紙文書に分けて、整理を進めた。詳しくは、分類別点数表を参照されたい。

分類別史料点数表

	戦前	戦後	補遺	合計
I 製造部	503	1,019	107	1,629
II 販売・営業部	308	653	58	1,019
III 会計経理関係	303	379	74	756
IV 分場関係	272	119	23	414
V その他関係	135	477	109	721
VI 一紙文書	412	780	161	1,353
合計	1,933	3,427	532	5,892



史料が山積みする藤本蚕種株式会社のかつての蚕室



かつての蚕室での整理作業風景

## 山田家資料の活用と 市民ボランティアによる古文書

中野市教育委員会 中野市立博物館学芸員 大滝敦士

平成 15 年、山田顕五氏（中野市江部）から所蔵資料の保存と活用のために敷地・庭園、建造物、古文書、典籍類、書画類、調度類等（以下、山田家資料）を中野市に寄贈（古文書は寄託）したいとの申し出があり、山田家資料は平成 20 年に中野市教育委員会に寄贈されました。

山田家資料の寄贈を受けた中野市では、これらの歴史的遺産を適切に保存・活用するとともに、全市的な視野に立って地域資料の保存と活用を図るため、山田家資料の活用方法について現在検討を進めており、山田家を「山田家資料館」（仮称）として、地域の歴史や文化を知り郷土を愛する心を養い、先人の知恵を活用することを通じて文化的な生活環境の整備に貢献する重要な施設であると位置づけています。

古文書については平成 10 年以降、中野市教育委員会と国文学研究資料館が共同で古文書の調査と整理を行い、その結果、中野市域の歴史や文化、ひいては長野県の近世・近代の歴史や文化を知るうえで重要な文書群であることがわかりました（成果として中野市教育委員会が『東江部村山田庄左衛門家文書目録』を 3 冊刊行しています。今後は、典籍類、書画類、調度類等についても調査を継続して行う予定です）。

中野市教育委員会では平成 21 年から新たに市民ボランティアによる資料調査を開始しました。地域に残されているさまざまな資料は市民共有の財産であり、市民が利活用することができる環境の整備を行う必要がありますが、それを単に行政のみで行うのではなく、市民との協働作業を通じて、山田家資料も含めた地域資料の活用の方向をともに模索していきたいと考えたからです。市民ボランティアの募集は平成 20 年 12 月に市の広報紙を通じて行い、作業は平成 21 年 1 月 28 日から開始し、中野市域における歴史資料調査の経

過や今後の資料調査の方針について話し合いました。以後、毎週水曜日、現在まで 38 回にわたって調査を行っています。参加者の中には古文書を扱ったことがない方もおりましたので、古文書の取り扱い方にまず慣れていただくことから始め、現在は古文書の解読、目録の作成、資料撮影、重要資料の活字化を中心に活動を行っています。

市民ボランティアとの共同調査は始まったばかりですので、成果はまだありませんが、今後は、資料紹介などを含めた成果の公表を行い、将来的には資料目録・資料集の刊行等をめざして、少しずつでも前に進んでいきたいと考えています。



調査風景



山田家

## 旧社村の兵事資料について

大田市文化財センター 島田哲男

大田市社の大日方功氏宅土蔵から故大日方正門氏が保管していた、明治16年(1883)～昭和20年(1945)までの旧社村(現・大田市社)の兵事資料綴りが210点余り発見され、大日方功氏より平成21年12月に大田市文化財センターに寄贈され、現在その内容について目録を作成中である。

「兵事書類」は、昭和20年の終戦直後、軍事機密として軍の命令で全国に焼却処分命令が出され、ほとんどが処分されたが、旧社村の場合、兵事係を務めていた故大日方正門氏が「戦争で命を落とした人、戦争に徴兵された人およびその家族の心情を思えば、灰にできない」という心情から、自分の家の蔵に保管していたものと考えられる。このような兵事資料の秘匿例は全国で5例ほどあるらしい。

残されていた兵事書類は、軍などの指示書類を綴った「兵事関係書類」、徴兵の綴りである「徴兵関係書類」、「動員ニ関スル発来翰綴」、「防衛召集綴」、徴兵の年齢に達した村民の調書である「壮丁名簿」、「在郷軍人名簿」、村民が飼っている馬を軍馬として徴発するための書類の綴である「馬匹現届」、「馬籍関係書類」、「徴馬関係書類」など兵事に関する書類綴のほか「兵事法令」、「動員実施業務書」、「金沢師団召集徴発雇備規定」、「徴兵事務必携(長野県)」など

兵事事務に関する法律及び実務書があり、当時の徴兵に関するあらゆる資料が揃っている。

特に太平洋戦争中の昭和16～20年(1941～45)の徴兵・動員関係の書類は、特に軍の出した処分命令の中で処分が重要視された書類で、数少ない太平洋戦争への動員のあり方を知ることができる貴重な資料である。

なお、この兵事資料については、個人情報が多々含まれているので、公開方法については現在検討中であるが、個人情報に関係していない部分においては、大田市文化財センターにおいて公開していく予定である。



最後に、このような貴重な戦争関係の兵事資料を自分の心情にもとづき、苦しみながらも保管していた故大日方正門氏には、感謝の意を奉げたい。合掌。

## 長野県立歴史館収蔵史料目録刊行案内

新たに収蔵史料目録を刊行しましたので、ご利用ください。

『長野県立歴史館収蔵文書目録 9』 800円

収録文書：諏訪郡松村家文書、同郡本宮政所文書、伊那郡下寺村文書  
水内郡南牧村文書、同郡西大滝村文書、今清水家文書 他

## 伊那市創造館について

伊那市教育委員会 生涯学習課 唐木 芳樹

### 1 施設について

「旧上伊那図書館」（新施設名「創造館」）は昭和6年建設の貴重な歴史的建造物であることから適切に保存し、市民の思索・学習の場とすべく創建当時の姿にできる限り復元し、あわせて文化的遺産・歴史的資料を保存する収蔵庫建設と、自然豊かな敷地を市民の憩いの場とする整備をおこなっています。基本的には、自然科学や考古学等の学習の拠点とするすべての市民を対象とした社会教育施設です。平成22年3月末日竣工にむけて、現在、工事が進められています。

### 2 施設概要

- ・敷地面積 5019.57㎡
- ・本館（鉄筋コンクリート造り、4階建て、延べ床面積1369.8㎡）  
学習室、体験学習室（2）、常設展示室、企画展示室、事務室、談話室ほか
- ・収蔵庫棟  
（鉄筋コンクリート造り、地上1階・地下1階、延べ床面積1252.2㎡）  
収蔵室 自然科学（2）、考古資料、古文書、市史編さん資料等を収蔵予定

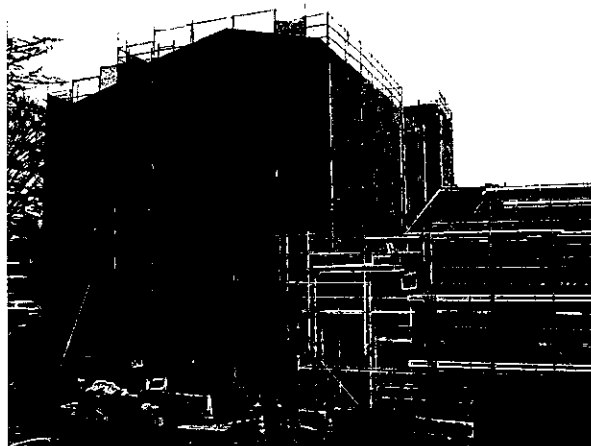
### 3 収納する史資料について

- ・市史編さん資料（収蔵庫内に保管予定）  
旧伊那市において、昭和59年に「伊那市史

（歴史編）」を刊行しましたが、その編さん過程において、多くの市民の個人所有の資料を調査し、写真撮影とコピーをおこない、現在、伊那市民会館に所蔵しています。資料には、原資料の写真とコピーがあり、近世資料として193分冊、現代資料としては66分冊あります。今後において、資料の整理・保存をおこない、その活用につとめてまいります。

- ・上伊那教育会からの主な寄託資料（歴史資料のみ）

- ①伊沢修二資料（高遠町出身の音楽教育者に関する資料・コレクション等）
- ②黒河内史料（旧長谷村の旧家黒河内家の高遠藩林政史料古文書、約1万点）



創造館建設風景

## 編集後記

「ネットワーク史料協10号」をお届けします。お忙しいなか、原稿をお寄せいただいた方々に感謝いたします。第2回文献史料保存活用講習会を行うなかで、各機関において史料保存の必要性がますます高まっていることを感じました。事務局としても、少しでも皆様の保存・整理の業務に役立つ情報をこれからも発信していきたいと思っています。今後ともよろしくお願いたします

### お知らせ

- ◇平成22年度長野県史料保存活用連絡協議会総会  
7月初旬（予定）伊那市立高遠町図書館
- ◇平成22年度長野県立歴史館文献史料保存活用講習会  
10月22日（金）長野県立歴史館

事務局 長野県立歴史館 文献史料課  
〒387-0007 千曲市屋代清水260-6  
TEL 026-274-3993 Fax026-274-3990